

6月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：<http://jppf.jp/>

□ チャレンジカップ京都大会

5/12-13の二日に渡って、第一回チャレンジカップ京都大会がスポーツくじの助成を受けて開催された。この大会は、日ごろNTC拠点として御世話になっている京都府さんや、サンアビリティーズ城陽、京都リハビリテーション病院のみなさんに、パラ・パワーリフティングとはどのような競技であるか知っていただきたい、見ていただきたい、という主旨と、9月に北九州で開催されるアジア選手権の日本選手代表を選考する大会と言う位置づけで開催した。初日は、強化指定選手の皆さんの試技、二日目は初めて大会に出る選手から、もう少しで強化指定、という選手が集まり、両日とも、大変な熱戦が繰り広げられた。大会期間中には、体験会ブースを設け、たくさんの方に、バーベルを上げていただき、選手のがんばりを実感して頂いた。

大会開催に当たっては、京都府から共催を頂き、公益財団法人日本障がい者日本パラリンピック委員会、並びに、城陽市（NTCの有る市）から後援を頂いた。また、初日終了後は、素晴らしいレセプションパーティーを開催して下さった。このパーティーは、京都府、城陽市、NPO法人京都スポーツ・障がい者スポーツ推進協会、全国農福連携推進協議会の皆様が主催者となって下さり、手作り野菜や料理を心から楽しませていただいた。

本当に京都の多くの人に支えられて、連盟一同、Tokyo2020に向かっています。

選手の皆さんの白熱した戦いぶりは、大会結果をご覧ください。



写真提供：Nishioka

血友病患者の皆さんへ佐野選手からの 応援メッセージ

北海道のニトリさんは、日本血液製剤機構さんからの依頼で2020年オリンピック・パラリンピックを応援する意味も兼ねて、パラリンピック選手や関係者に取材をし、血友病患者の皆さんに勇気を与えられる記事作りに取り組んでおられます。今回は、パラ・パワーリフティングの選手の佐野義貴選手が応援メッセージを送りました。

Heart to Heart

第41回

パラ・パワーリフティング
日本代表・
強化指定選手
佐野 義貴
Yoshiki Sano



昭和43年生まれ(49歳)
東京都生まれ
甲子園を目指して進学した山梨学院大附属高(現山梨学院高)3年の夏休みに交通事故で脊髄損傷、車いす生活に。退院後、車いすバスケット、陸上に取り組み、32歳の時にパラリンピック出場を狙いパラ・パワーリフティングに取り組み、日本代表として活躍中。

世界を目指して取り組んだパワーリフティング ケガに泣かされても不屈の闘志で何度でも立ち上がる!

- Q 甲子園、プロ野球選手を夢見る野球少年だったそうですね。
- A 2年半を切った東京大会へ向けて意気込みを聞かせてください。
- Q 高校時代は4番捕手、キャプテンでした。社会人野球へ進むことが決まっていたのですが、大会後の高3夏、友人のバイクの後ろに乗り、事故に遭いました。
- Q 2年前に「アスナビ」という制度で採用していただいた所属先(外資系製薬会社)に最高のバックアップをしていただき競技に集中できています。その期待に応えるために、階級を落とした65kg級で国内王者、そしてアジア選手権、19年の世界大会とステップアップをします。
- Q スポーツ選手が一瞬で車いす生活。受け入れることはできましたか?
- Q 克服したい課題は何ですか?
- Q 18歳の当時、受け入れるのは無理でした。ただ、辞めようと思った高校が車いすで過ごせるように改築するなど配慮してもらって卒業することができ、入院中にお世話になった看護師に車いすバスケットを紹介してもらい、車の免許を取り、少しずつ生きる力をいただきました。
- Q 首を痛めたり、脱臼したり、ケガとの戦いです。強い若手も育てています。ライバルと争いながら、成長し、勝ち取っていくのは野球で慣れていますので大歓迎です。
- Q 現在、パラリンピック東京大会出場を目指す、パワーリフティングとの出会いを聞かせてください。
- Q そうすると佐野さんの夢は…?
- Q 32歳頃、日本代表としてパラリンピックで戦いたいと考えた時に出会ったのがパラ・パワーリフティングです。野球部で筋トレをやっていたのでなじみもありましたから。
- Q 目の前の一戦一戦が東京大会への夢としてつながっています。現在49歳ですが、まだまだ人間的にも記録でも成長できると思っています。
- Q 高校時代に健常者として取り組んだ「ベンチプレス」と競技としての「ベンチプレス」、違いはありましたか?
- Q 読者へのメッセージをお願いします。
- Q 今は腕の力しか生かせない重い障害なので、高校時代の感覚とはまったく違います。でも一番の違いはトレーニングではなく、命を懸けて世界へ挑む競技、戦いだということ。意識が全く違います。
- Q 私のような事故での障害と病気とは一緒ににはできないかもしれませんが「想い」は一緒だと思います。やれないことも多いけど、やれることだってたくさんある。やれないことを嘆くよりもやれることを楽しめたら、と思っています。私は歩けなくなつて30年以上になりますが、「せつかく生きているのだから」と思い続けてきました。そう思えば、一日一日、「何か」を楽しめると思っています。その「何か」は人それぞれだと思うので、楽しみを見つけしてほしいと思います。

□ パラ・パワーの様々な取り組み

パラ・パワーリフティングは、パラリンピック種目の中で、認知度ワーストナンバー3に入っているようです。出来るだけ多くの方々にパラ・パワーリフティング競技を知ってもらいたいと、普及啓発活動には、労を厭わず、活動に参加することを基本にしています。そのような中、ゴールデンウィークに、東京駅丸の内側で、東京都が主催で、盛大なパラリンピック普及活動が2日間に渡って、繰り広げられました。パラ・パワーリフティングからは、大堂選手が、魔娑斗選手とバーベル挙上回数を競いました。魔娑斗さんはさすがに世界チャンピオンだけ合って、バーベルに挑もう、なんとしてでも挙げよう、という気迫があり、会場の皆さんの絶大な支持を受けていました。もちろん、パラリンピアン的大堂選手が魔娑斗さんに挙上回数では圧勝しました。大堂選手の力強い試技と、魔娑斗さんに会場からは盛大な拍手がありました。二日目は、宇城選手

がパラ・パワーの紹介をし、都知事の小池百合子さんもバーベルを触っておられました。また、二日を通じてパラ・パワーの体験会も開催させていただき、200人を超える人々に、バーベルを挙げていただきました。(写真下)

パラ・パワー連盟では、定期的な合宿を開催しています。写真右は5月初旬10日にわたる合宿中の一コマです。合宿では練習のみならず、選手役員のコンプライアンス意識を高めるために、警視庁から提供された、ビデオで、アスリートとして、どのような態度で、社会生活を送っていけばよいか、身につつまされました。

